

令和7年度（令和8年5月10日）

子ども会体験活動作文



浜松市子ども会連合会

令和7年度浜松市子ども会連合会 子ども会体験活動作文

怖さをこえて歩んだ一歩

飯田西子ども会 6年 稲垣陽菜乃

夏の思い出

本郷町子ども会 6年 島 天音

モルック大会予せん会

西美蘭上子ども会 3年 吉浦 壮亮

びっくりいっぱい！みそ作り

鴨江東子ども会 6年 渡瀬 結久

みそ作りの達成感

鴨江東子ども会 6年 伊藤 巧人

みそ作りって、ドキドキ、ワクワク！

鴨江東子ども会 3年 伊藤 碧美

そば打ち体験をして

東若林子ども会 6年 佐藤 綾音

子ども会食育活動に参加して

助信町子ども会 6年 鈴木 心菜

マジックショー

上町子ども会 3年 及川 梓

みんなで作る楽しい一年

中瀬5区子ども会 6年 市川梨衣沙

難しかったモルック大会

赤佐5区子ども会 6年 奥村 七花

次は何が起こるんだろう？

上町子ども会 6年 荒谷 真生

ふれあい動物園が今年も来た！！

高塚南子ども会 6年 山田 幸喜

気球に乗ったよ

西和子ども会 5年 藤田 美紅

初めての焼きいも大会

向宿子ども会 6年 三輪 夏希

一年生から六年生までが

飯田西子ども会 6年 横山 映奈

① 怖さをこえて歩んだ一歩

飯田西子ども会 6年 稲垣陽菜乃

私は子ども会の遠足で、浜北森林アスレチックに行きました。さまざまな遊びの中で、特に印象に残っているのがタライ船渡りです。水の中に浮かぶタライに乗り、ロープをたぐりよせながら進む遊びで、見た目以上に不安定でした。水に落ちるかもしれないと思うと、とても怖く、順番が近づくにつれて心臓がドキドキしました。

実際にタライに乗ると、少し動くだけで大きく揺れ、ロープを強くにぎったことで、手も痛くなってしまい、思うように前へ進みませんでした。「やっぱり無理かもしれない」と弱気になりましたが、岸から友だちが、

「落ちついて。「ゆっくりでいいよ。」

と声をかけてくれました。その声を聞いて、あわてずロープをしっかりとつかみ、体のバランスを意識することを思い出しました。

何度も揺れながら少しずつ前に進み、無事に向こう岸に着いた瞬間、大きな安心感と達成感が一気にこみ上げてきました。怖くて逃げたくなった気持ちを、自分で乗り越えられたことが、とても誇らしかったです。

この体験を通して、挑戦する勇氣は一人で出すものではなく、仲間の支えがあつてこそ生まれるものだとなりました。また、怖い時こそ落ち着いて考え、行動することの大切さも学びました。中学生になっても新しいことに挑戦する時も、困難な場面に出会った時も、この経験を思い出し、あきらめずに一歩踏み出していきたいです。

② 夏の思い出

本郷町子ども会 6年 島 天音

私は、七月二十三日に、とう芸教室に参加し、お皿を

作る体験をしました。初めての体験だったので、やり方が分からずとてもきんちょうしました。でも、とう芸教室の先生が、ねん土を使っていいねに教えてくれたので、お皿を作る前には、きんちょうが楽しみに変わりました。

お皿を作るのには、難しいことが二つありました。一つ目は、ねん土でひもを作って、つなげていくことです。

特に、ひもの太さや長さの調節が難しく、太すぎたり、長すぎたりすると、重たくて安定しないため、途中で落ちてしまいました。二つ目は、時間をかけていると、ねん土が固まってしまうことです。ぬれているタオルで少しずつねん土をふきながら、何度もやり直して、ていねいに形を整えました。

このような一つ一つの作業を、しっかりやっていくことが大事だと思いました。一年生から六年生までそれぞれ、形や模様の違う作品ができていて、でき上がりが楽

しみになりました。私はお皿のふちを、少し外にかたむけて、お皿がかわいく見えるように、こだわりました。とう芸教室には、お世話になった町のおばあさんを、招待しました。町の子供達のために、お祭り用のぼうしやナップサックを作ってくれる方です。おばあさんは、とってもすてきな花びんを作って、一緒に楽しんでくれました。

難しいこともたくさんあったけれど、とう芸教室を通して、夏休みの思い出を作ることができました。秋に、みんなの作品が届くのが、とても楽しみです。



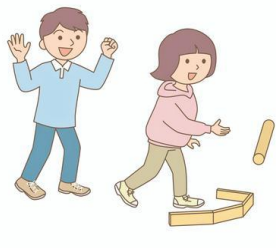
③ モルック大会予せん会

西みその上子ども会 3年 吉浦 壮亮

ぼくは、九月二十七日に北浜小学校で、モルックの予せん会にさんかしました。

ぼくは予せん会にさんかするまで、モルックのことを知らなかったし、やったこともありませんでした。

だから、予せん会が始まって、モルックのルールを教えてもらったときは、ちゃんとスキットルをたおせるか不安でした。



じっさいにやってみると、練習のときは

スキットルをたおせなかったけど、本番では、五、六本たおせたり、一本だけたおして八点をとれたりして、うれしかったです。

力かげんやなげ方をかえたら、練習より多くたおせました。

ぼくのチームは、五年生が一人と六年生が二人とぼくの四人でした。

ぼくは一番下の学年だから、足を引っぱらないようにがんばろうと思いました。

一し合目は、負けてしまいました。

負けてくやしくて、次のし合はがんばって勝つぞと思いました

二し合目は、勝てました。

一し合目に負けて、くやしくて気合が入ったから勝てたと思いました。

三し合目の相手のチームには、友だちがいました。

なので、楽しくやろうと思いました。

じっさいにやってみたら、一し合目と二し合目よりも楽しいと感じました。

ぼくたちのチームは、六チーム中三位でした。

ゆう勝はできなかったけれど、うれしかったです。

モルツクのなげ方がむずかしかったけど、力かげんを
工夫して高とく点をとれたときは、うれしかったです。
モルツクは、初めての人でも、子どもでも大人でもで
きるところがいいところだと思いました。

また。来年もさんかしたいです。

④ ひつくりいっぱい！みそ作り

鴨江東町子ども会 6年 渡瀬 結久

僕は、鴨江東町子ども会で行われた加藤しょう油さん
のみそ作り体験で、多くのことを学びました。家や学校
の給食で、普段食べているみそを自分で実際に作ったこ
とで、初めて知り、おどろいたことが四つあります。

一つ目は、大豆のつぶれ具合です。僕が普段食べてい
るみそには、大豆の原型が残っているものはほぼないの
で、完全につぶさなければ、みそは完成しないのかと思

っていました。ですが、加藤しょう油さんから「完全に
つぶさなくてもみそは出来るので、少し豆つぶを残して
おいたらみそ汁にしたときに『あたり』として出てくる
というお話を聞き、おどろいたと同時にみそ汁に『あた
り』があるという言葉聞いて、とてもワクワクしまし
た

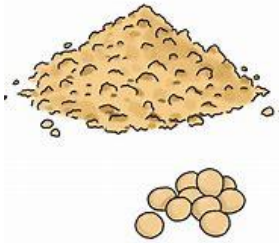
二つ目は、糀の甘みです。僕の母は糀が好きで、幼い
ころから塩糀やしょう油糀を、ごはんやお豆腐などに
せて食べてきました。ですが、塩糀やしょう油糀は塩分
でしょっぱく感じていたため、加藤しょう油さんから、
「糀は甘いんだよ。」と聞いて、そのままの糀を一つぶ食
べてみた時の、ほんのりとした甘さにとってもおどろきま
した。

三つめは、塩です。みそ作りに塩を多く使うというこ
とは知っていたのですが、「カビの生える量を減らすため
に最後に上に塩をかける」ということを初めて知り、と

てもおどろきました。みそを作るときに塩は二つの役割がある、必要不可欠で重要なものなんだととてもおどろきました。

四つ目は、カビです。カビも菌と同じ種類があり、塩をかけたものの、生えてくるカビは食べても害がないということにとってもおどろきました。ですが、カビが見えるのは嫌なので、しっかりと塩をふりました。

以上のように僕は、加藤しょう油さんにみそ作りに関する様々な知識を教えていただきました。今回作ったみそを半年間しっかりと保管して、子ども会の友達と味比べをしたり、『あたり』のあるみそ汁を作ったりして、美味しくいただきました。



⑤ 味そ作りの達成感

鴨江東町子ども会 6年 伊藤 巧人

僕は子ども会のイベントで初めての味そ作り体験をしました。講師は、加藤しょう油のとら岩さんです。その日の朝起きた時から味そ作りのことで頭がいっぱいだったので、集会所に少し早く着いてしまいました。けれど、待ち時間も楽しく、友達と味そについてのクイズを出し合ったり、どんなことをするのだろうと話し合ったりしたことを味そのようにこく覚えていきます。

加藤しょう油さんがいらっしやってからは、ボウルやマッシャーを机に並べるお手伝いをしました。エプロンを着ていざ始めると、友達と話すのを忘れるほど集中しました。

まず最初に、米こうじと食塩を混ぜ合わせました。均等に混ぜ合わせるのが難しかったけれど、つぶつぶ感が気持ち良かったです。次に、蒸して煮た大豆をマッシャ

―でつぶしました。これが、一番根気のいる作業でした。

つぶす際に一回一回気持ちと力をこめてつぶしましたが、マッシャーの穴をぬけたり、ボウルとマッシャーの間をすべったりする厄介で元気な大豆くんでした。しかし、全部つぶし終わってつぶつぶ感が無くなったときは、とても達成感がありました。その後、大豆と米こうじと食塩を混ぜたものを練り合わせるときは、少しずつ少しずつを意識しました。なぜなら、一気に混ぜると塩こうじの塩味が片寄って、完成したときにいいお味そにならないからです。家でハンバーグを練った経験を活かし、たくさんたくさん練りました。最終工程で、容器につめ塩をふるときは「最後まででいいいに」を意識してきれいに詰めました。作ったみそを入れてふたを閉めたときは、本当にやり切ったと思いました。

持って帰るときは、味そが本当に重かったですが、旨味とがんばりがつまっているからだと感じました。今は

僕の部屋に置いて、大切に見守っています。

「発こうまであと180日、あと179日・・・」と数えています。味そが美味しくなるまで、期待に胸がふくらみ続けています！



⑥ みそ作りって、ドキドキ、ワクワク！

鴨江東町子ども会 3年 伊藤 碧美

子ども会の行事で、みそ作りをしました。みそ作りはじめての体けんだったので、さいしょはしっかり作れるかドキドキしました。みそ作りを教えてくださいましたのは、加藤しょう油のとらいわさんです。

まず、こうじとおをまぜ合わせました。手でまぜた

時に感じた、こうじのつぶつぶ感としおのじやりじやり感がおもしろかったです。その後、ゆでた大豆をマッシャーでつぶしました。たくさんあったので、時間がかかりました。つぶし終わった大豆を「食べていいよ。」と言われたので食べてみました。すると、ねっとりしていて、つぶのままの大豆としよつかんがぜんぜんちがいました。次に、さいしょにまぜたこうじとしおを、つぶした大豆とまぜ合わせました。しおとこうじが大豆の全体にいきわたるように、数十回に分けてこうじを入れたり、ひっくり返すようにまぜたりしました。大豆とこうじの両方の重さがあって、ひっくり返すときは重くて大変でした。

全ての作業の中で一番大へんだったのが、ようきにつめる作業です。空気が入るとカビがはえてしまいます。そのため、空気が入らないようにつめるのが大へんでした。まず、少し手に取って丸めて、だんごみたいにし

す。それを四すみにつめ、その後もだんごを作って、空気が入らないようにしっかりとつめました。

さい後に、カビをはえにくくするためのしおを全体にふり、ラップをかけて完せいです。

はじめてのみそ作りだったけど、じょうずにできたのでうれしかったです。でも、すぐつかれました。みそ作りをしているとらいわさんと加藤しょう油さんは、すごいなと思いました。きちょうな体けんができてうれしかったです。はっこうが終わるまで、ワクワクが止まりません！！

⑦ そば打ち体験をして

東若林子ども会 6年 佐藤 綾音

そばを作るのは少しむずかしいけれど、私は、そば打ちが大好きです。そばを作るには色々な工程があるけれ

ど、私がとくにむずかしいと想った工程は、二つあります。

一つ目は、小麦粉とそば粉と水をまぜるところです。まぜた後に、一つのまとまりにまとめていくのが上手にできなくて少し大変でした。でも、少しずつ水の量を調節して、きれいにまとめることができました。

二つ目は、まとめた生地をのばすところです。棒を使って、縦や横にのばして、なるべくうすい生地になります。そのときに、厚い部分とうすい部分ができてしまつて、きんとうにのばすのがむずかしかったです。のばしてだんだんうすくなつてくると、生地がわれてきてしまうので、力のかげんもむずかかったです。

そば打ちは、五回くらいやったことがあるけれど、まだむずかしいところがありました。私が一番好きな工程は、生地を切るところです。まだ、そば打ち一回目のときは、むずかしくてほそく切れなかったけど、毎年やつ

ていくうちに、ほそく切れるようになってきました。そばを切る用のほうちょうは、大きくて重いのでなれていなくて、前回やったときに、切っているつもりでも、つながっていたりしたところがありました。なので、今回は、ほそく切ることと、つながらないようにすることを意識して切りました。そのことを意識して切ったので、つながらずに切ることができたし、いままでやってきたなかで、一番ほそく切ることができたと思います。

出来上がったそばは、家族みんなでおいしく食べました。自分が作ったそばを食べると、がんばって作って良かったなと思いました。それに、二八そばなので、香りが良くておどろきました。そばを一から作る貴重な体験をすることができました。



⑧ 子ども会食育活動に参加して

助信町子ども会 6年 鈴木 心菜

十月九日、助信町子ども会の食育活動に参加しました。この活動では、みんなでカレーとサラダを作りました。

今回のカレーは、なんと水を一滴も入れない「無水カレー」で、トマトの水分だけで作ると

いうことで、最初は本当にできるのか半信半疑でした。でも、鍋の中でトマトや野菜がだんだん柔らかくなっていく様子を見て、

「野菜ってこんなに水が出るんだ!」と、びっくりしました。サラダもただ

野菜を切るだけじゃなく、ドレッシング

とマヨネーズも手作りしました。特にマヨネーズは、卵を混ぜ続けるうちにだんだん白っぽくなっていった、

「本当に売っているマヨネーズみたいだ!」



と、みんなで盛り上がりました。

料理の途中には、今回の食材を作ってくれた農家さんとの交流会もありました。トマト農家さんや鳥を育てている農家さんが来てくれて、育てるときに苦労していることや、楽しいと思うことをたくさん教えてくれました。私たちも、

「どうしてこんなに甘いトマトができるの?」

「卵って毎日同じようにとれるの?」

など、普段聞けない質問をどんどんして、いろいろなことを知ることができました。食べ物がただスーパーに並ぶだけじゃなく、作ってくれている人の努力があるのだと実感しました。

最後に、作ったカレーとサラダを農家さんも一緒に食べました。自分たちで作った料理はいつもより特別に感じて、とてもおいしかったです。農家さんも、

「おいしいね。」

と言ってくれて、とても嬉しくなりました。今回の食育活動は、料理の楽しさだけじゃなく、食べ物の大切さも学べて、本当に思い出に残る一日になりました。

⑨ マジックショー

上町子ども会 3年 及川 梓

わたしは、前、子ども会のマジックショーでうきました。いすを2こおいて、上にだいをおいて、足の方のいすをとって、だいをとって、あたまの方のいすだけにたじゅうをかけて、うきました。

はじめは、何かがぬけるかんかくがして、上を、みるとフラフラがとうって、上しかみえませんでした、どうがともだちの話だと、ういていたそうです。わたしもさいしょは、びっくりしましたが、ういたりゆうがわかったかもしれません。

てつのわっかだったら、ふつうは、われめがないと入らないのに、われめがないようにしかみえないわっかどうしがチャリーンといって、はまりました。わたしは、それを見て、「えっ、どうして」と思いました。お父さんはそのことを

「チャイナリングという名前だよ。」

とおしえてくれました。

「へー、ふしぎだなー」と思いました。どうして、チャイナ＝中国 リング＝わっか という名前なのかな？とふしぎに思いました。

ほかに、ふうせんをマジックのお兄さんがふくらまして、糸つきのはりでぶすつとゆっくりさすと、ふつうにとおって、つぎに、ぴゅっとはやくさすと、「パン」っと音がして、風船がわれたと思うと、キラキラのポンポンがパツとはりの先についてびっくりしました。

「えっ、風船とつめいだったよねー！」「と」「どうして？」

と思いました。

そして、自分でマジックを試みようの時間で、小さい紙コップと大きい紙コップと、しんぶんしと、セロハンテープとハンカチでマジックをしました。4回もできてびっくりしました。

さいごに、レモンのマジックをしてくれました。レモンの絵をつつにして、トントんたたいたかと思うと、レモンが出てきて、びっくりしました。そして、紙をひらくと、レモンの葉っぱだけになっていました。

ほかにもカードのマジックやいろいろのおもしろいマジックがいっぱいで、とてもゆかいな時間でいっしゅんのように思えました。また、きてほしいです。



⑩ みんなで作る楽しい一年

中瀬五区子ども会 6年 市川梨衣沙

私たち六年生が一年生るとき、新型コロナウイルスの影響でイベントとお祭りが無くて、それが三年生ときまで続きました。だから、同学年の友達に一人も同じ幼稚園の人がいなかったのと、同じクラスになったことのある人が少なかったのもあるけど、中瀬五区の友達がほとんどいませんでした。

四年生のころから子ども会のイベントが復活しました。クリスマス会や豆まき会などでゲームや工作をして、同じ学年の友達とも仲良くなることができました。

今、私は六年生で、この間は、一年生を迎える会の運営の手伝いをしました。私のお母さんや友達のお母さんたちが中心になって運営していて、見ていだけでも大変そうでした。

一年生を迎える会の当日、私は司会の仕事を友達とやりました。みんなをまとめるのは大変だったけど、一年生の子たちが喜んでくれたし、楽しんでくれてうれしかったし、やってよかったと思いました。

これからもクリスマス会や豆まき会など、たくさんイベントがあるので、友達とがんばりたいと思います。

あと、子ども会のイベントでモルック大会もあるし、中瀬の秋祭りもその練習も、小学校生活で最後の年なので、心残りがないように楽しみたいです。

この経験を中学、高校で生かしていけたらいいなと思いました。

⑪ 難しかったモルック大会

赤佐五区子ども会 6年 奥村 七花

十月十一日、近所でモルック大会の予選会がありました

た。六年生の友達といっしょに参加し、大会ということもあってか多くの人が集まっていました。始まる前に練習をしてもよいということだったので一度やってみると、投げる棒が思ったよりも軽くてはねてしまい、的に当たらず難しかったです。そして、練習が終わり、試合が始まりました。同じチームには六年生の友達がいて、少し安心しました。

一試合目の対戦チームは友達が多くいて、おたがいに応えんしながらも「負けたくない」という気持ちもありました。自分が投げる番になり、高い点数めがけて投げると、ちょっと当たったけどたおれはせず、残念な結果で一ターンの終わりました。その後、両チーム共、着々と点数をかせいでいきましたが、最終的には相手のチームが勝っていました。ちょっとくやしかったけど、まだ試合が残っていたので、すぐ次にいきました。

次のチームには低学年が多く、ハンディ(投げる場所)

も大きかったので、点差がひらいてしまい、五ターンほどで終わり、負けてしまいました。でも、最初の試合よりはコントロールも良くなっていました。なので、「次の試合は勝つぞ!」という意気込みの下、次の試合が始まりました。

対戦チームには低学年が多いわけでもなく、こちらと似たようなメンバーでした。自分のターンになると、しっかりと高得点的を当てることができたので、とてもうれしかったです。そこからどんどん点差を広げていき、なんとか勝つことができました。

全ての試合が終わり、結果発表になりました。表彰されるのは成績の良い一位と二位のチームです。自分のチームが呼ばれるかドキドキしていると、呼ばれたのはどちらもちがうチームでした。正直とてもくやしかったです、楽しかったので、またやりたいと思いました。

⑫ 次は何が起こるんだろう？

上町子ども会 6年 荒谷 真生

僕は、マジシヤンのJUNさんを見させていたきました。

ショーが始まる前、子ども会に一気にきんちょうが走りました。ついに、ショーが始まりました。最初実は、そこまで期待してませんでした。なぜなら、ショーが始まる前、少し知恵の輪的なマジックをやらしてもらいました。それが、簡単そうに見えてとても難しく、びっくりしました。しかし、マジシヤンの人はとても簡単にやっつてのけました。けれど、「これくらいのことしかできないのかな?」と失礼ながら思いました。

しかし、ショーが始まり、その気持ちは一変しました。なぜなら、見様見真似でできるものは一つもなく、自分の想像を優に超えてみせました。悪く思った自分を恨みました。

子ども会で代表としてマジックを手伝いました。何を手伝うんだろう？と思いながら前へ進みました。後ろで風船を作っている音が聞こえました。風船を使って何をするんだろう？とワクワクしていました。目を開けると目の前にはとても大きな風船がありました。そこにいきなり、針をさしてきました。自分は思わず風船から手をはなし、耳をふさぎました。ですが、風船は割れません。自分はぼうぜんとしました。すると、時差でパンツと大きな音で割れました。初めての体験に思わず目を丸くしました。

マジシャンのすごいさの一つは、トークスキルです。考えてみたら、言葉で見ているものの錯覚を起こしているのかな？と思いました。でも、一番は、「距離を縮める」ことだと考えました。だからそのためにも、マジシャンだけがトークをするのではなく、見ている方も質問したり、会話したりすることがその場のふんいきづくりにつ

ながると思いました。

今回、マジシャンJUNさんを見させていただきました。最初から最後までのお楽しみメーターが限界突破しました。最初は、「どうせそこまで・・・」でも最後は、「次は何が始まるんだろう？」と楽しみを与えてくれました。今回のマジックショーで、マジックに対する気持ちを改めることができました。「マジックは、体を張らないだろう。」と思っていましたが、「失敗したら大事故の可能性がある所を、やろうと思う気持ちがあるのがすごいことだな。」と思いました。

マジックは、人だけでなく、その場のふんいきを明るくさせるすてきなショー。

マジックで心と心が通じ合う。人と人が分かり合う。自分の想像を超え、人を楽しませ、期待をもたせる。

「さあ、次は何が始まるんだろう？」

⑬ ふれあい動物園が今年も来た！

高塚南子ども会 6年 山田 幸喜

十月十八日土曜日、可美協働センターまつりがありませんでした。子ども会のイベントで、今年もふれあい動物園が来てくれると聞いていたので、友だちといっしょに遊びに行きました。今年はどんな動物が来ているのかなと楽しみにして行きました。

最初に、モルモットのふれあいをしました。毎年、モルモットのふれあいができます。毎年さわっているけれど、今年もやっぱりかわいかったです。最初はバタバタしているけれど、背中あたりをやさしくなでてあげると、だんだん落ちついてリラックスしているような顔になります。ワラミみたいなエサを口



のあたりに近づけてあげると、口をモガモガさせて食べてくれるのもかわいらしかったです。

し育員さんが、メンフクロウのふれあいをさせてくれました。ぼくは、昔からメンフクロウが好きなので、ぜひさわってみたいと思いました。順番がきて、背中あたりをなでてみると、思っていたよりもすごくふわふわしていて、とても気持ちよかったです。し育員さんが、「今日きている動物の中では、一番ふわふわの動物ですよ。」

と、教えてくれました。ぼくは、ねこをニひきかっているのですが、ねこの毛よりも、もっともつとふわふわしていました。

毎年来てくれるふれあい動物園ですが、ぼくは来てほしい動物がいます。それは、ラッコです。ラッコは水も必要だし、日本にはニひきしかいない動物なので、来てもらうのはむずかしいと思いますが、いつかふれあい動物園に来て、なでたり貝をあげたりしてみたいです。

⑭ 気球に乗ったよ

西和子ども会 5年 藤田 美紅

わたしは、初めて気球に乗りました。乗る前、気球に乗る順番を待つ列に並びました。心配でお茶を何回も飲みました。一緒に乗るメンバーが同級生と妹だったので、とても心強かったです。わたしと妹がだんだん不安になってきて、

「乗りたくない。」

と言い始めたら、母と一緒に乗ってくれることになりました。気球は、乗る前は少し怖かったけど、いざ乗ったらとても楽しかったです。少しガスが熱くてちよつと怖かったです。でも、ふわふわ浮かぶ感じがおもしろかったです。気球の上から見た景色は、なんともいえないものでした。いままで五年間過ごして、毎日見ている運



動場を真上からみると、こんな感じなのかなと思いました。少し上に上がっただけで、人間がこんなに小さく見えることにおどろきました。このままずっと見ていたいと思っていたら、もう下りる時間になったようで、ゆっくりかごさがっていきました。短い時間でしたが、とても特別な体験ができました。

気球に乗ったあと、気球の先生からくわしい話を聞きました。気球の種類、大きさ、ひもがついていない状態でどう飛ぶかなど、貴重なお話を聞くことができてよかったです。気球を飛ばすにはたくさんの条件をクリアしないといけないのに、今回運よく気球に乗ることができてよかったです。もう一回乗せてくれると言われたら、最初のわたしの気持ちとは全然ちがって、どんどん乗せてもらいにいくと思います。今度学校の上を飛ぶ夢を見るときは、とてもリアルな夢を見ることができると思います。楽しい夢が見られることが楽しみです。

⑮ 初めての焼きも大会

向宿子ども会 6年 三輪 夏希

十一月一日、子ども会で焼きも大会をしました。私は焼きいもを焼くことが初めてだったので、朝からドキドキしていました。

まず、さつまいもを選び、新聞紙で包み、水にぬらしました。その上からアルミホイルでしっかり巻きました。巻いた後のさつまいもを見て、「これが本当に焼きもになるのかな」と少し心配になりました。

次に、火起こしをしました。火起こしには、すぎの葉とかわいている木を使うと燃えやすいことを教えてもらいました。火をつけると、すぐに葉や木に燃えうつり、大きな炎になりました。さつまいもが焼けるのを待っていると、甘い香りがしてきて、「もうすぐかな」とうれしくなりました。

担当の人がトングで焼きもを取り出してくれたとき、

私はドキドキしながらアルミホイルを開きました。さつまいもを半分にすると、中からほかほかの湯気と、金色に光る焼きもが出てきました。ひと口食べると、あつくてほくほくで、とても美味しかったです。寒い日だったけれど、心まであたたくくなりました。

初めての焼きも大会は、楽しくて、大変だったけれど忘れられない思い出になりました。



また、この焼きも大会を通して、みんなで協力することの大切さ、がんばって作ったものの美味しさを感じました。みんなで協力して作った焼きもの味は、市販のものよりも何倍も美味しかったと思います。

来年も参加するときは、この日学んだ、体験したことを活かして、今年参加できなかった子たちにさつまいもの包み方や、枝をそっせんして集めたりしながら、楽し

く協力しながらまたみんなといっしょに、焼いも大会を行いたいです。

⑩ 一年生から六年生までが

飯田西子ども会 6年 横山 映奈

子ども会の活動で浜北森林アスレチックに行きました。まず、ゴーカートやサイクルモノレールで遊びました。どちらとも二人で乗るものだったので、一年生と乗ったり、同じ六年生と乗ったりしました。みんな楽しそうで「もう一回乗りたい。」などと言ってワクワクしていました。

次に、竹馬や竹ぼっくりをしました。竹馬に乗れる人もいれば乗れない人もいて、乗れない子は、何回も何回もあきらめずに、がんばっていて、私はおうえんしたくなりました。

そして、お昼ごはんになりました。みんな、友達と笑顔でお話をしながら食べていました。その時のごはんは、とてもおいしかったです。

最後に、今日一番楽しみにしていたアスレチックをしました。アスレチックは、四十種類ありました。たくさんの木があって自然を感じることができました。アスレチックは、だんだん難しくなっていました。最初は、アスレチックを最後まですることができました。でも、だんだん難しいのが増えていき、できないものはとばす人もいました。速い人はどんどん進んでいき、二周目をする人も増えていきました。私は、一周しかすることができなかったけど、楽しくすることができました。

そして最後に、一年生から六年生までが、協力して楽しく遊べるのは、子ども会ならではのものだと思います。ふだん学校などでは、一年生から六年生までが一緒に話したり、遊んだりすることがないからです。私はこ

の活動を通して、色々な学年の人と話したり、遊んだり
できるようになりたいです。

募集中

子ども会体験作文の募集中です。

〒431-0211

浜松市中央区舞阪町舞阪 2668-349

舞阪保健センター内

浜松市子ども会連合会事務局

TEL&fax 053-596-2878